



キレるお年寄りにどう向き合う 増える暴言・暴力トラブル

2/14(火) 11:15 配信

コラージュ: EJIMA DESIGN



高齢者による暴言・暴力が増えている。2016年版『犯罪白書』によれば、20年前と比べて高齢者の「暴行」は49倍に増加。駅や病院で暴言を吐いたり、乱暴な振り舞いをしたりというケースが増えてきた。なぜトラブルは起きるのか。家族はどう向き合うべきなのか。当該家族の話に耳を傾けながら、有識者の知見を尋ねた。

(ジャーナリスト・岩崎大輔/Yahoo!ニュース編集部)

大声で怒鳴るお年寄り

「このバッジがあるだろうが」

東京・永田町、衆議院第一議員会館。受付で、身なりのいい高齢者の怒声が響き渡った。島本政男さん（78・仮名）は公設秘書を18年以上務めた者に贈られる徽章、通称「元秘書バッジ」を指差しながら、「私は町長もしていたんだ」と大声で怒鳴っていた。

確かに、その徽章を示せば、議員会館の厳しいセキュリティチェックも素通りできる。だがそのとき、島本さんは息子の芳雄さん（45・仮名）を同行していた。徽章のない芳雄さんは、入館に際して訪問先議員事務所の承諾が必要だった。だが、島本さんは息子の存在を忘れ、怒鳴り散らした。芳雄さんが慌てて耳打ちをすると、島本さんはバツの悪そうな表情を浮かべ、トイレに向かっていった。



街中で、苛立つお年寄りを見かけることはないだろうか（コラージュ: EJIMA DESIGN/撮影: 岡本裕志）

芳雄さんは、父親が大声で怒鳴ったことを心配していた。「もともと父は静かで優しい性格でした。子どもの頃、ボールで遊んでいて窓ガラスを割っても『おっ、元気だな』と言うくらい鷹揚でした。ところが、2年前に町長を引退し、1年前に母を亡くしてからは、目に見えて性格が変わっていきました」

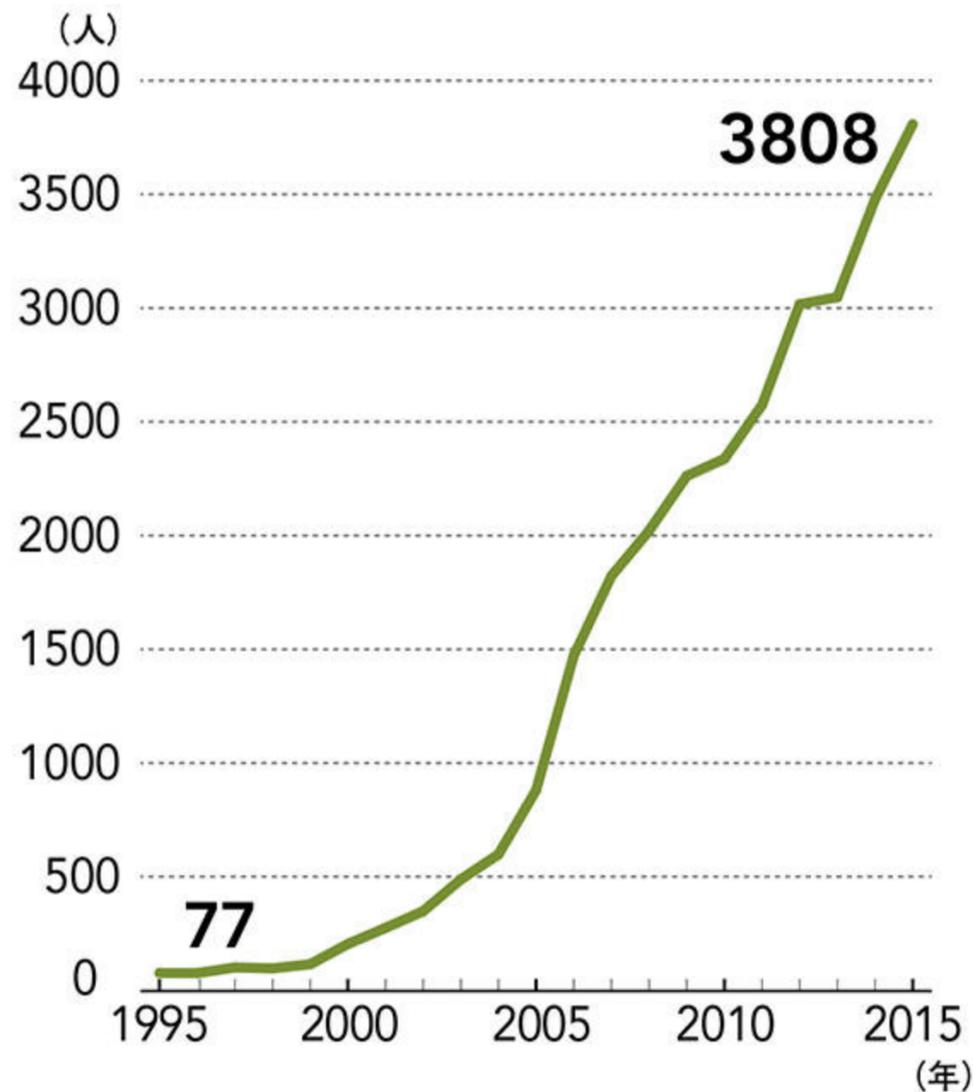
島本さんは外出をしなくなると、昼間から酒を飲みだし、「別人かと思うほど」怒りっぽくなった。「いつかタガが外れて、街中で誰かに暴力を振るったりするのではないか。そんな心配をせずにはられないのです」

65歳以上の「暴行」は49倍に激増

2016年版『犯罪白書』（法務省）。少年犯罪や外国人犯罪はピーク時の3分の1にまで減少していたが、65歳以上の高齢者の犯罪は突出して増加していた。

20年前の1995年と比べると、2015年、「殺人」が約2.5倍、「強盗」は約8倍、「傷害」は約9倍という急激な増え方。もっとも増加していたのは「暴行」で、これは約49倍にも増えていた。

高齢者(65歳以上)の「暴行」検挙人員は20年で49倍に



とくに2005年ごろからの増加が著しい。資料：2016年版『犯罪白書』

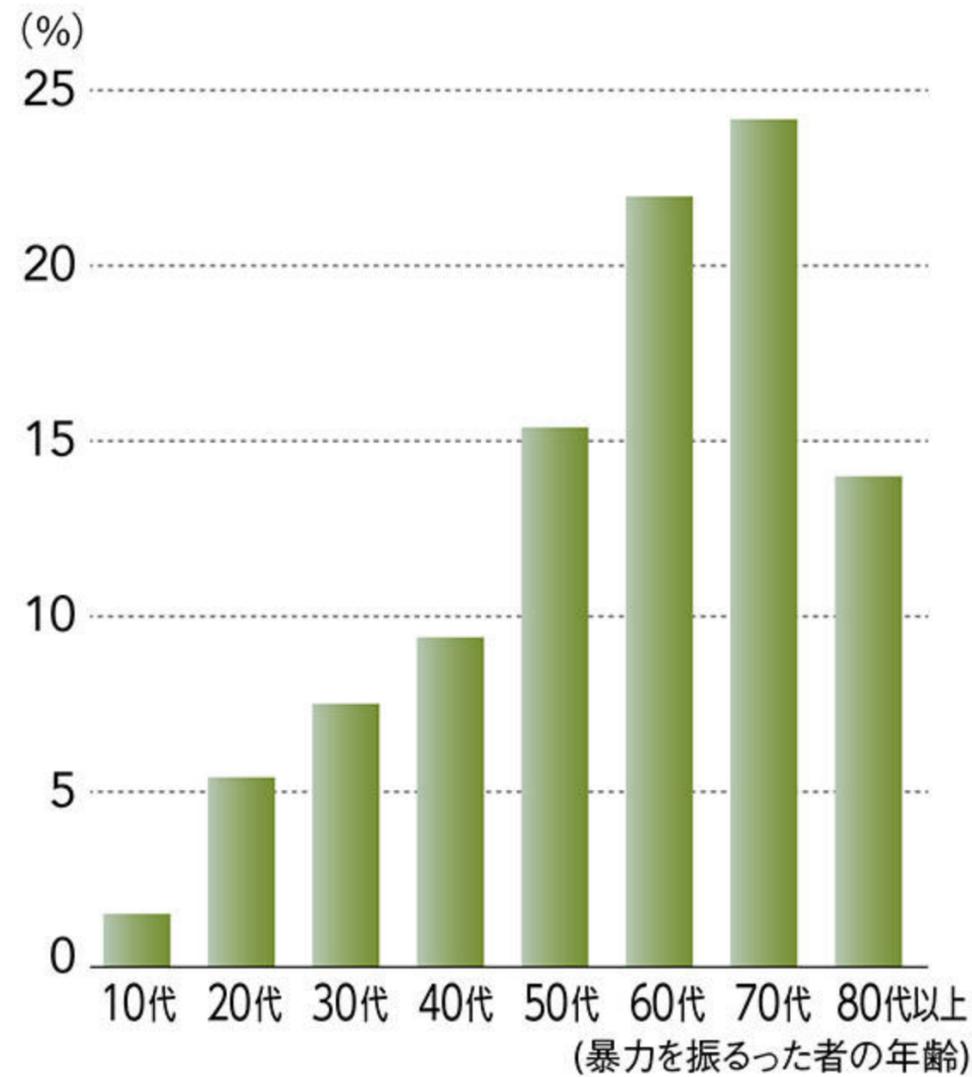
私鉄やJRなど計33社局が2016年に発表した、鉄道係員に対する暴力行為についての集計によれば、駅係員や乗務員などに暴力行為を働いた中で、もっとも多いのが60代以上で、23.8%だ。

2013年に私立大学病院医療安全推進連絡会議が発表した院内暴力の調査でも、同様の結果が明らかになっている。私大病院の職員（医師、看護婦等）、約2万9000人に患者やその家族、見舞客などから「暴言」「暴力」「セクハラ」を受けた経験があるかと尋ねたところ、暴言については41.5%、セクハラは14.1%、暴力は14.8%の職員が「はい」と回答。いずれの項目でも相手（加害側）は50代、60代、70代が多く、なかでも暴力に限っていえば、70代が24.2%ともっとも多かった。

取材を進めると、高齢者の暴言・暴力は身近な問題として多発しており、けっして

珍しくないことがわかってきた。問題は、こうしたトラブルは「疾患」でも「事件」でもないとして、社会的に重大視されていないことだ。

高齢になるほど増える病院内暴力



数字は病院内暴力全体に占める割合。「年齢不明」があるため合計は100%にならない。出典：私立大学病院医療安全推進連絡会議共同研究

家族旅行も台無しに

「せっかく親子三代で出かけたハワイ旅行でしたが、義父が面倒を起こしたせいで、台無しでした」

神奈川県川崎市に住む富永仁美さん（44・仮名）は数年前の家族旅行をそう振り返る。ハワイ旅行は夫の父（75）の長年の希望で、孫（8）と一緒に浜辺で遊びたいという話をしていた。楽しい旅になるはずだった。

だが、そうはならなかった。予約していたレンタカーが確保されていなかったのだ。2日目の朝、不手際がわかったところで、義父は「どういうことだ！」と憤りはじめた。ホテルの出先カウンターには、日本人女性スタッフが一人。義父は女性スタッフに執拗に謝罪を求め、大きな声をあげ、カウンターを蹴った。

「『お前のせいで滞在1日分を無駄にした！』と、何度も繰り返しては、大声で謝罪を要求していた。ホテルの警備員が寄ってくる騒ぎようでした」。4日間の滞在中、義父は同じ話をたびたび蒸し返し、気分の悪い旅行となった。

富永さんが夫とともに驚いたのは、義父の怒りようだった。義父は几帳面ではあっても、そこまで怒るような人ではなかったからだ。だが、ハワイでの義父は執拗なまでに謝罪を求め、一人で怒りを増幅させていた。

「なぜ義父がそうなったのか、義母もわかっておらず、ちょっと怖さを覚えました」（富永さん）





公共交通機関も暴言の場に（コラージュ: EJIMA DESIGN/写真: pixta）

暴言にとどまらず、暴力行為にまで及ぶケースもある。報道によると、兵庫県加古川市で、75歳の男がタバコのポイ捨てを注意してきた小学1年生の男児の首を絞めた事件、東京都千代田区で64歳の男がすれ違いざまにベビーカーの1歳児を殴ったという事件など、いくつも起きている。

脳の機能低下、周辺環境変化が影響している

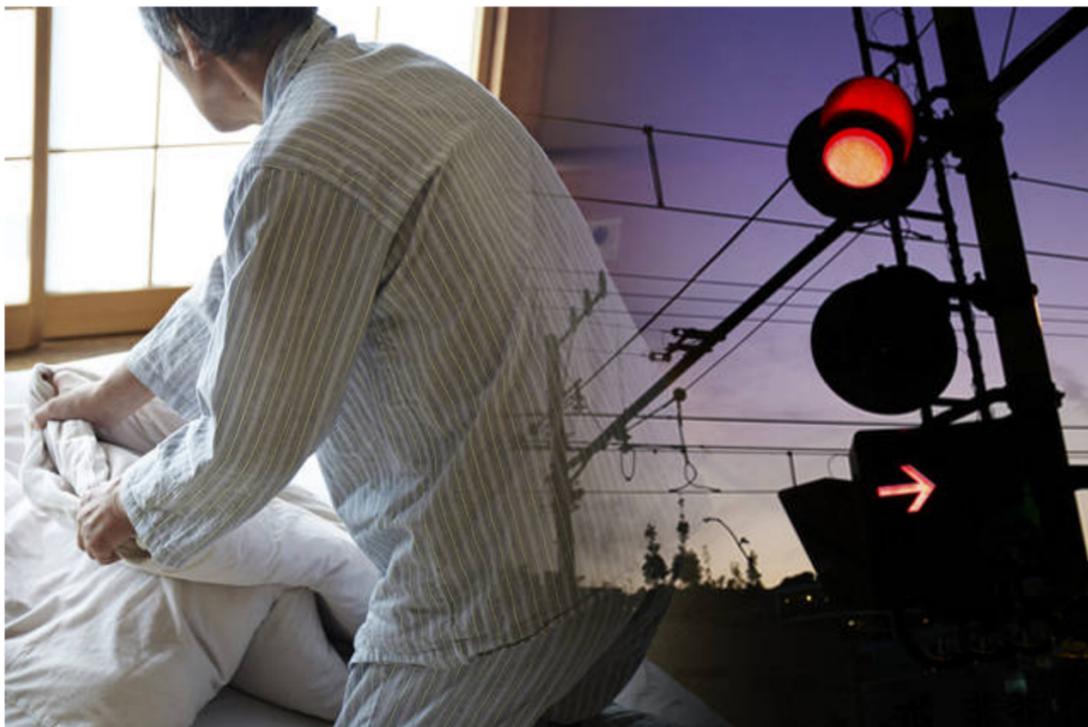
問題の根本には何があるのか。精神科医で老年精神医学にも見識が深い「さくら坂クリニック」の武藤治人院長は、暴言や暴行も老化現象の表れと語る。

「私のクリニックでもそういう方がいらっしゃいます。予約もなしにやってきて、『予約でいっぱいです』とお断りしても、『すぐに診察しろ！』とご自分の主張を繰り返す。事情を説明しても、理解してくれない。こうした方は、一度怒りが爆発すると、その衝動を止められなくなる傾向が見られます」

こうした変調の原因は、おもに2つあると武藤氏は指摘する。第一に老化に伴う脳の機能の低下、第二に社会的な環境変化に伴う心理的な要因である。

年を取ると、脳内の神経細胞が減少し、徐々に萎縮していく。その脳の変化が行動にも表れていく。

「脳には感情、理性、意欲、思考を司る前頭葉という部位がありますが、この前頭葉が萎縮して機能が低下すると、感情を制御できなくなったり、判断力が衰えたりすることで、性格の変化が起こります。気配り上手だった人が傍若無人に振る舞うように変わるとき、脳の変化が起きている可能性があります」



暴言・暴行の裏には「孤独」があるのだろうか（コラージュ: EJIMA DESIGN/写真: pixta）

第二に環境変化に伴う心理的要因だ。たとえば、人との関わりが薄れることで自己肯定感が低下し、不満や不安が溜まりやすくなる。その不満や不安がちょっとしたことで怒りに転化すると武藤氏は言う。

「昔に比べ、家族や親族との関係も浅くなりました。高齢になれば社会での活動範囲は狭まり、誰かと関わりたくとも関われない。鬱屈してしまうのでしょう」

「怒り」をコントロールするスキルを身につけることを推奨している日本アンガーマネジメント協会の安藤俊介代表理事は、怒りの前の感情に注意すべきと語る。

「怒りの感情は第二次感情と呼ばれ、第一次の寂しさ、苦しさ、不安などの感情の次に表れます。マイナスの感情を多く抱えていると、怒りを生み出しやすい」

雑談ができて寂しさを共有してくれたりすれば、マイナス感情は薄れていく。だが、一人でマイナス感情を溜めてしまうと、ふとしたときに暴発するという。



安藤俊介氏（日本アンガーマネジメント協会代表理事）（撮影：岡本裕志）

安藤氏は、この20年で高齢者の間で「暴行」事件が激増した点は、「老化」だけでは説明しにくいと指摘する。そこで注目するのが、戦後のベビーブーム（1947～1949年）に生まれた「団塊世代」の高齢化だ。「この団塊世代は、『会社人間』でもありました。この人たちが65歳以上の高齢者層に加わったことが大きいように思います」

平日は毎日のように残業し、上司が無理な命令をしても、社員の義務として我慢する。そんな「会社人間」が、団塊世代の特徴だったと安藤氏は指摘する。だが、彼らが年を取って、会社会的な束縛や制約がなくなった。この解放感が大きいというのが安藤氏の見立てだ。

「会社員時代に乱暴な行動をとれば、解雇など社会的な制裁にあいます。いまでも、身分証を首からぶら下げていれば、駅員を殴ることはないでしょう。しかし、会社や肩書きから離れたことで、社会的なタガが外れたのではないか」



若者よりお年寄りのほうが「キレやすい」

環境変化とは別に、深刻なケースとして、認知症もある。認知症から派生的に表れる「周辺症状」には「意欲の低下」や「記憶障害」などと並んで「暴力」がある。「周辺症状」が疑われる場合、医師への受診が必要なこともあるだろう。

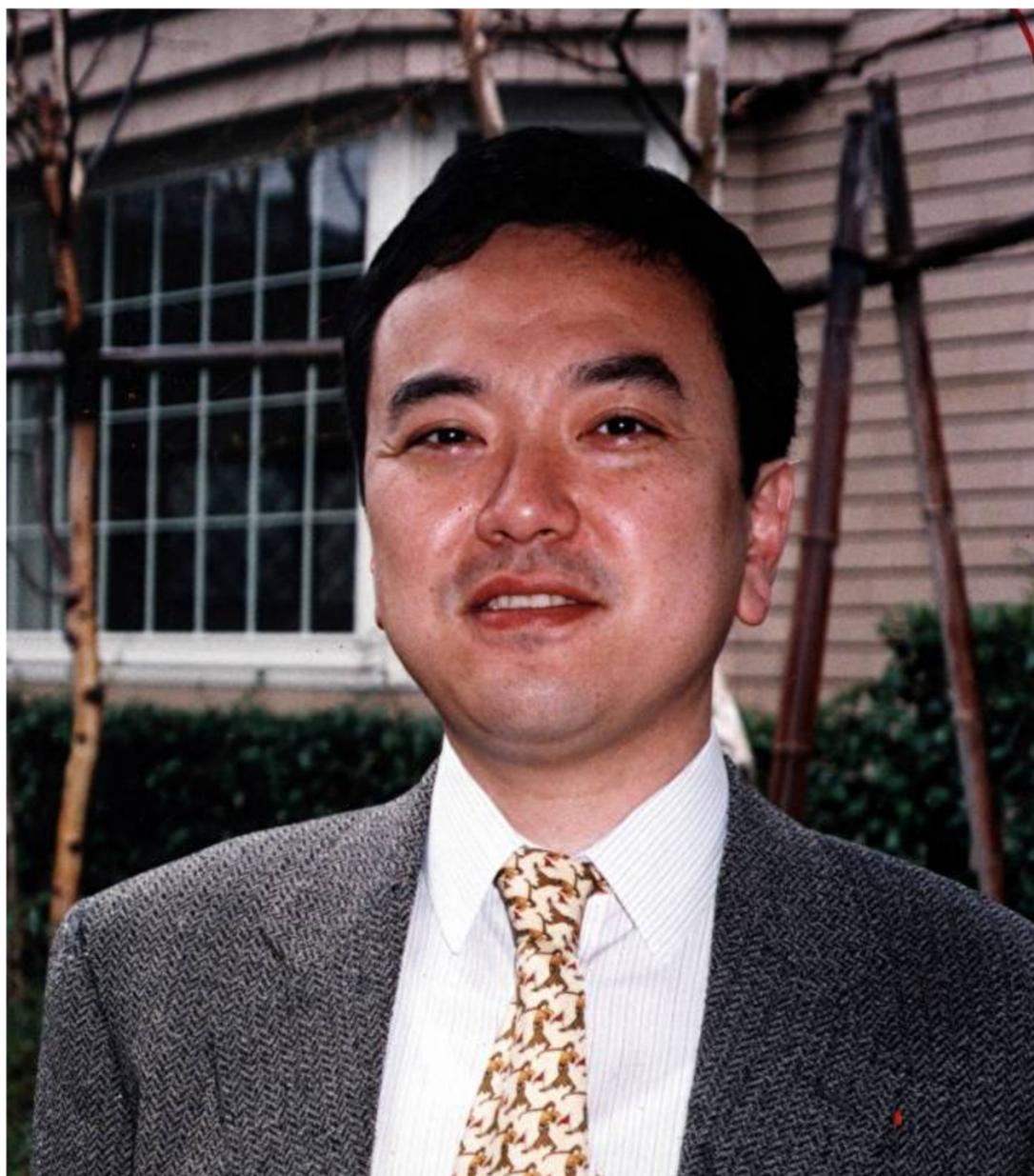
ただし、前出の武藤医師は、これまでの診断経験から言えば、怒りっぽくなった人の多くは、認知症ではなく、一般的な「脳の老化」が要因だろうと指摘する。

「MRI（核磁気共鳴画像法）で30歳と60歳以上の脳の検査画像を比較すれば、たいてい60歳以上の方の脳は少しずつ萎縮している。しかも、脳は使わなければ衰えていく。そうした前提から、年を取れば誰でもそうした脳の変化が起こりえる、ということを知って周囲が認識しておく必要があると思います」

高齢者の暴言やちょっとした暴力が「脳の変化によって起こるもの」だと周囲が認識していないことも、問題の一因ということだ。

だが、そういう理解をもったとしても、身近な家族や親族にとっては悩ましい問題だ。日々の暴言や暴力は家族を壊す可能性も秘めている。

キレル高齢者とどう付き合っていくべきか。老人問題について多数の著書のある精神科医の和田秀樹氏は、「受容・傾聴・共感が重要」とし、こう語る。



和田秀樹氏（精神科医）（写真: 毎日新聞社/アフロ）

「『受容』はまず理不尽な話であれ、無条件に受け入れる。そして真摯に話に耳を傾けてあげる『傾聴』をし、さらに相手の気持ちに寄り添って『共感』してあげる。それだけでおじいちゃん、おばあちゃんの態度は変わると思います」

その上で高齢者は「穏やかで怒らない」というイメージを捨て、もともと「キレやすい」「怒り出すとコントロールが利かない」という理解で接するべきだという。

「昔から日本の先人がしていたように高齢者を敬う、たててあげる。順番待ちに耐えられないので優先してあげる。家庭でも社会でも高齢者を『どうせ暇なんだから』

という無下な態度はとらない。逆に言えば、そうした失礼な対応が反発や疎外感を引き起こし、自己中心的な高齢者をますます生み出している可能性があるのです。人間誰でも年を取っていくものです。いずれ自分もそうなる、と思えば、横柄な高齢者にも優しく接することができるのではないのでしょうか」



ふとしたことで感情は暴発し、制御不能に陥る（コラージュ：EJIMA DESIGN/写真：Pan Xunbin/shutterstock、pixta）

岩崎大輔（いわさき・だいすけ）

1973年、静岡県生まれ。ジャーナリスト、講談社「FRIDAY」記者。主な著書に『ダークサイド・オブ・小泉純一郎「異形の宰相」の蹉跌』（洋泉社）、『激闘 リングの覇者を目指して』（ソフトバンククリエイティブ）、『団塊ジュニアのカリスマに「ジャンプ」で好きな漫画を聞きに行ってみた』（講談社）など。

[写真]
撮影：岡本裕志
写真監修：リマインダーズ・プロジェクト
後藤勝
コラージュ：EJIMA DESIGN
[図版]
ラチカ



人口減と高齢社会 記事一覧(4)



キレルお年寄りにどう向き合う 増える暴言・暴カトラブル
2/14(火) 11:15 配信



「人口減」をイノベーションで好機に変えよ
2016/11/2(水) 14:44 配信



高齢ドライバー500万人時代 免許返納いつ？悩む本人と家族
2016/6/7(火) 12:26 配信



高齢者に群がる業者「合法的詐欺」の手口
2016/6/3(金) 12:33 配信





「自由診療」事前説明は十分ですか？
レーシック集回訴訟をみつめて



誰が荷物を運ぶのか 同乗ルポ 深夜のトラック長距離輸送



400年続く「農民ロケット」 轟音が渡す次世代へのバトン



「本の未来」を考える—出版業界のキーパーソンたちに聞く



「食べない」人々—グルメ時代に抵抗感？



消えゆく「死者との交信」—青森のイタコを訪ねて

Facebookコメント

コメント172件

並び替え **最新** ▾



コメントを追加...



窪田孝志

接客業してますが男性で過去の職業で偉そうにしてたような人がこのような行動に出やすいです。

いいね！ · 返信 · 2017年2月14日 22:02



Makoto Yamada

高齢の方は耳や眼の不自由を患って人との会話もままならないしイライラするのだろう！？ 少しの辛抱である。

いいね！ · 返信 · 2017年2月14日 19:51



Miyamoto Hiroshi

元々この年代は、荒れた青春時代を過ごした連中だからな。

カミナリ族、今でいう暴走族の走り、全国にかなりの数存在していた。

学生運動も盛んで、連合赤軍が生まれたのもこいつ等が10代20代くらいの時だ。

校内暴力も結構問題になってて、学校の窓ガラスを割ったり色々...

なので、1960年代、1970年代に「今の若者は・・・」と言われた連中が、「今の老人は・・・」と言い換えられてるだけ。... もっと見る

いいね！ · 返信 · 7 · 2017年2月14日 18:31

さらにコメント10件を表示

Facebook Comments Plugin

※本コメント機能はFacebook Ireland Limited によって提供されており、この機能によって生じた損害に対してヤフー株式会社は一切の責任を負いません。

[< 特集トップ](#)

[トップ](#) | [速報](#) | [写真](#) | [映像](#) | [雑誌](#) | [個人](#) | [ビジネス](#) | [特集](#) | [意識調査](#) | [ランキング](#)

[プライバシーポリシー](#) - [利用規約](#) - [メディアステートメント](#) - [ご意見・ご要望](#) - [ヘルプ](#) · [お問い合わせ](#)
Copyright (C) 2017 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.